

令和4年度「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	佐賀県立盲学校 生徒数 17人 児童数 4人 幼児数 1人	担当者名	永松 真奈美
住所	郵便番号 840-0851 佐賀市天祐一丁目5番29号	電話番号	0952-23-9352

◆ご提出いただいた個人情報は、本事業のためのみに使用し、それ以外の目的に使用することはありません。なお、県における個人情報の取扱いについては、佐賀県プライバシーポリシー及び行動プログラム (<http://www.pref.saga.lg.jp/web/privacy/privacypolicy.html>) に定めています。

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	全員参加で楽しもう！図書館祭り！！
	取組期間	令和4年10月17日～令和4年11月30日

※令和4年4月1日以降、各学校が取組を始めた日から、令和4年11月30日までの取組とする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	22人	実施日数	31日	読書冊数	442冊	連携した団体数	2団体
	取組内容(概要)	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館祭りの各種イベントの実施〔作品展示、おすすめの本の紹介展示、お話しサウンドクイズ、本に関するクイズなどのコーナー、全体ゲーム(体育館)〕 ・移動図書館(年2回実施、本を台車に乗せて児童生徒が集まりやすい場所で) ・県立図書館からの本の読み聞かせ 						
	工夫したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害特別支援学校に特化したクイズの出題方法(サウンドクイズやイントロあてクイズ、触れる作品展示、図書情報部全員で役を決め本の朗読をするお話し(コロナ禍のため事前収録によるオンデマンド配信で実施)) ・移動が困難な児童・生徒のために図書館の方から移動 ・外部との連携(県立図書館、点訳ボランティア団体:秋桜の会など) 						
	取り組んだ感想	<p>日ごろ、本は読みたいけれど、ゆっくり図書館に行ったり読んだりする時間が取れないという児童・生徒が多いので、こちらから働きかけて本の楽しさに触れてほしいと考えた。幼児・児童・生徒が図書館に足を向ける頻度が増え、より読書に関心をもってくれるようになったと感じた。しかし、書籍の貸し出し冊数の増加には十分には反映されていないようだ。視覚障害は、主として情報の入力に困難が生じる障害種であるため、本校独自の図書館運営が必要となってくる。活字を音声に変換してくれる機器や拡大読書器の設置、点字本や拡大本、マルチメディア図書などの充実を通して、幼児・児童・生徒の読書生活が少しでも豊かになるように働きかけていきたいと思った。</p>						
	これまでの取組や今後の取組予定	<p>リクエストBOXの設置(購入希望の本や、点訳、音訳してほしい本を募集している。)令和3年度は生徒・職員・保護者から計16冊の本の購入希望があった。今年度も10月時点で7冊の購入希望、点訳が2冊、音訳1冊のリクエストがあっている。</p> <p>幼児・児童・生徒の実態や趣向に沿った「今、読みたい本」をタイムリーに入れ、ワクワクする図書館にしていきたい。また、これからも小学部でのお話会の取り組みを継続したり、様々な学習(理療科にも)に役立つ書籍も積極的に入れたりしていきたい。さらにその有効な活用について全職員から意見を集め、授業の中で生きる図書館の在り方を考え実践していきたい。</p>						

※本報告書は簡潔に記述し、A4サイズ2頁以内とし、取組内容が分かる資料(写真、イラスト、取組前

1 図書館祭りの各種イベント紹介

〔おすすめの本紹介コーナー〕児童・生徒や職員におすすめの本を紹介してもらう。紹介文を書くテンプレートは、本の表紙も入力しちょっとしたポップ調になっている。それが A4 判で壁面にずらり。それらを点訳したものを冊子に綴じて誰もが読めるようにしている。また実際の書籍も展示しいつでも手に取って読めるようにしている。

〔作品展示コーナー〕幼児・児童・生徒が授業等で製作したり職員が手作りしたりした作品を持ち寄り、展示をしている。図工の時間などに作った立体作品や絵画、幼稚部で毎月作っているカレンダー、家庭科の作品（エプロン、小物）、写真、書、中には物語を創作した文集など様々。最終日は、学校公開の日で保護者や外部の方にも参観していただけるようにしている。

〔図書館クイズのコーナー〕広用紙に問題掲示。図書館の書籍に関するクイズを出題し、回答してもらっている。初級から上級まで難易度は3段階あり、誰でも挑戦できるようにしている。

〔サウンドクイズのコーナー〕パワーポイントを活用し、様々な音を流し、何の音なのか3択で当てるクイズ。生徒たちはパソコンから流れてくる音に耳をすまし、答えを用紙に書き込んでいた。

〔人気のある絵本当てクイズコーナー〕広用紙に問題掲示。その名の通り、図書室でよく読まれている絵本は何か3択で当てるクイズ。

〔図書館まつり全体ゲーム〕（イントロクイズ）

昼休み、図書館を飛び出して、みんなが体育館に集まり、大型プロジェクターを活用し、全10問のイントロ当てクイズに挑戦する。全問正解者から順に景品をゲットすることができる。いろいろな年代の曲に頭をひねりながら曲名を考えていた。

〔お話し会〕図書情報部全員が役割分担し一冊の絵本を音読する。それを録音し、楽しい効果音や画像などを入れる編集を施し、学習用端末や電子黒板で鑑賞することができる。また、その後ディスクに保存し、図書室においていつでも鑑賞できるようにしている。



壁面いっぱいのおすすめの本紹介。写真はある職員の特設コーナー。実際の書籍も展示し、毎年楽しませてくれている。



作品の解説を点字で読む児童。作品のほとんどが手で触って鑑賞でき、その解説文も拡大文字や点字で添えてある。



全体ゲームに参加する児童たち。イントロに耳を澄ませ、正解を聞いて一喜一憂。幼児、児童、生徒同志の一体感が生まれる楽しい時間。



作品を触察しながら鑑賞する児童。丁寧に触りながら作品のイメージを高めていく。
（背面はおすすめの本紹介コーナー）



マルチメディアデジタル図書を友達と一緒に鑑賞。音声だけを楽しむ児童と画像も楽しむ幼児がともに活動。下は中学部の生徒と一緒に。



サウンドクイズを楽しむ幼児と児童。パソコンの簡単な操作だけで問題が流れたり、次の問題に変わったりする。画面は見やすいようにコントラスト等が工夫されている。



図書館へは日ごろ足が遠い児童も図書館祭りのイベントには楽しく参加。本と出会うきっかけにもなっている。



学校公開当日は、多くの保護者や参観者が訪れ、盲学校の生徒や職員たちの作品を鑑賞したり、クイズに参加したりしていた。また、同じ図書館内で様々な視覚補助具等の展示も行っており、視覚障害への啓蒙啓発をすすめるための展示となっている。



2 県立図書館の読書活動支援事業との連携

県立図書館が展開している読書支援事業の一環として、盲学校小学部の児童らに対

象に読み聞かせをしていただいた。事前に児童の実態などについて打ち合わせをしたこともあり、「おおきなかぶ」の音読の際は、実際のかぶを触らせるなど、本のイメージが広がるように工夫されていた。



3 毎週金曜日朝のお話会

幼小学部では毎週金曜日の朝、学習室に集まり本の読み聞かせを行っている。毎週幼小学部の職員や図書・情報部の職員が1冊ずつ児童の興味、関心及び実態に即した本を選書し、続けている。その中で、図書館まつりで準備しておいたお話会の番組を電子黒板で再生しみんなで鑑賞したり、落語の実演を聴いたり、様々な演出方法で実施し、児童たちは毎回楽しくお話を聴く機会となっている。



「なんのにおい はる」の読み聞かせでシロツメクサや山椒などの草木の香りを実際に感じてもらう。



落語を聴いた後、着物や扇子、手ぬぐいなどを触察する児童たち。



いろいろな本を楽しく聴く児童たち